

小中学校のPTA向けの講演会を行った時（Vol.126参照）、「猿江公園の3種のカエルはどう見分けの？」と質問された。口だけで説明するのは非常に難しく、カエル班のタクムやユウキは言葉に詰まってしまっていた。一応ぼくも回答に加勢して助け舟を出してあげたものの、結局は「素人が見分けるのは困難」という何ともモヤモヤの残る答えになってしまった。猿江公園には「ヒキガエル」と「ニホンアカガエル」と「ウシガエル」がいて、このうち「ウシガエル」は特定外来生物に指定されている非常に厄介な外来種だ。一方で、カエル自体は生育に水辺環境が必須で、開発の影響で在来種が全国的に減少してしまっている。その種が保全対象なのか、はたまたウシガエルのように駆除対象なのか、しっかり区別することはとても大切だ。せっかく一般の方に興味を持っていただいたのに明確に教えることができなくて歯痒い。この場で一度整理しておきたいと思う。

ヒキガエル

絶滅危惧種※

別名：ガマガエル *Bufo japonicus* (ヒキガエル科)

※猿江公園では、東日本亜種（在来種）のアズマヒキガエルと西日本亜種（国内外来種）のニホンヒキガエルが混在している。



成体 口先はあまり伸びず、全体的にどっしりした様子。のそのそ歩き、簡単に捕まえられる。体表にイボがある。



成体のサイズ感 体長は最大15cmほど。



若い個体 耳の後ろあたり（耳腺）が膨らんでいるのもヒキガエルの特徴。



上陸直後の幼体 非常に小さい（1cm程度）。黒い。



ニホンアカ
ヒキ

幼生（オタマジャクシ）の比較
小さい黒い方がヒキガエル、大きい茶色い方がニホンアカガエル

卵塊 ひも状（早春）

ニホンアカガエル

絶滅危惧種

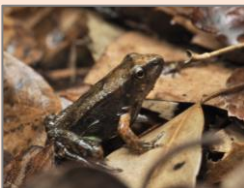
Rana japonica (アカガエル科)



成体 口先が伸び、全体的に小柄でスマートな印象。動きは素早く、びよびよん跳んでなかなか捕まえられない。目の横に黒い帯模様があるのが特徴。



水中の様子
繁殖期の冬以外はほぼ陸上にいる。



上陸直後の幼体
上陸直後の幼体は2cm程度で、ヒキガエルより大きい（成体は逆）。体が角ばっている。茶色い。



成体のサイズ感 ヒキガエルの成体より圧倒的に小さい。体長は最大7cmほど。



卵塊 ポール状（早春）



幼生（オタマジャクシ）
体色が薄く、茶色っぽい。ヒキガエルの幼生は黒いのですぐに見分けがつく。

ウシガエル

特定外来生物

別名：食用ガエル *Rana catesbeiana* (アカガエル科)

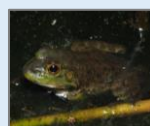
【外来生物法により飼育や生きたままの運搬等は禁止されています】



成体 ニホンアカガエルを巨大にしたような形。動きは素早く捕獲は困難。ブオブオと牛のような鳴き声を出す。体長は最大18cmほど。



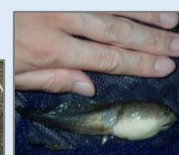
成体のサイズ感 成熟個体はとにかく巨大なので別の種と間違えることはない。



若い個体 成体も若い個体も水中にすることが多い。緑色っぽい体色のものもいる。



卵塊 シート状（夏）



幼生 オタマジャクシも超巨大



2匹のヒキガエル（オス）がメスと間違えてウシガエルの成体に抱きついている様子。



ニホンアカガエル（オス）がメスと間違えて若いウシガエルに抱きついている様子。